

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-157	高等学校	地理歴史科	世界史 A	1～3 学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 A 316	世界の歴史 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

- (1) 編修にあたっては、幅広く世界史の知識を学び、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことができるよう留意した。
- (2) 世界史 A は標準単位数 2 単位、16 世紀以降の近代・現代を中心に理解させる科目であるので、それ以前の叙述は簡潔に記し、近現代史においても、歴史の大きな流れがつかめるよう、詳細な事項は記述しないよう配慮した。
- (3) 全体を 66 のテーマでまとめ（主題学習は除く）、各テーマ見開き 2 ページ構成とし、1 回の授業で 1 テーマを学べるようにした。
- (4) 世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目し、第 1 部第 1 章の「世界の諸文明」では各地域世界の冒頭に「風土と人々」を設けた。また「そのころ日本は」の項目を設け、世界史のなかで日本史が関連付けられるよう留意した。
- (5) 見開きのヴィジュアルページ「viewpoint」では、宗教・文化・技術・世界の一体化など様々な切り口のテーマを写真を用いて解説し、豊富な視覚的情報から歴史の理解が深まるよう留意した。
- (6) 写真・図版を多用して、視覚的効果を高め、生徒の興味をひくような紙面構成に配慮した。

2. 編修の基本方針

- (1) 平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「世界史 A」の目標、内容、内容の取扱いの趣旨に従ったが、学習上の便宜を考えて、若干独自の構成を加えて本書を作成した。
- (2) 学習指導要領世界史 A の内容である「世界史へのいざない」「世界の一体化と日本」「地球社会と日本」の趣旨に従って、部・章立てを行った。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界史を学ぶみなさんへ 暦とは何だろう 世界史へのいざない①自然環境と歴史 世界史へのいざない②日本列島のなかの世界史	<p>* 冒頭の「世界史を学ぶみなさんへ」では、日本と世界の関わりに気付かせ、世界史を学ぶ意義を分かりやすく説明し、世界史学習に意欲的に取り組めるよう努めた（第 1 号・第 5 号）。</p> <p>* 「世界史へのいざない①」では、多様な自然環境がその地域の歴史と深く関わっていることを示した。また生徒の主体的な学習を促す問いかけ文を付した。（第 2 号・第 4 号）。</p> <p>* 「世界史へのいざない②」では、世界史と日本史が密接に関係していることを示した。また生徒の主体的な学習を促す問いかけ文を付した。（第 2 号・第 5 号）。</p>	表見返し裏 6～7 ページ 8～9 ページ
序 人類の歴史の始まり 第 1 部 世界の一体化と日本 第 1 章 世界の諸文明 東アジア世界 1 東アジア世界 I 2 東アジア世界 II	<p>* 第 1 部第 1 章「世界の諸文明」では、各地域の形成と発展を示し、風土や文明の特徴を大づかみに理解させるよう心がけた。</p> <p>viewpoint ①③④⑤では宗教を取りあげ、世界の主な宗教に関する知識を身につけられるよう配慮した（第 1 号）。</p>	12～53 ページ

<p>viewpoint ①儒教・仏教・道教</p> <p>3 東アジア世界Ⅲ</p> <p>viewpoint ②モンゴル時代のユーラシア（13～14世紀の世界）</p> <p>南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>4 南アジア世界</p> <p>5 東南アジア世界</p> <p>viewpoint ③ヒンドゥー教</p> <p>西アジア世界</p> <p>6 西アジア世界Ⅰ</p> <p>7 西アジア世界Ⅱ</p> <p>8 西アジア世界Ⅲ</p> <p>viewpoint ④イスラーム教</p> <p>ヨーロッパ世界</p> <p>9 古代地中海世界</p> <p>10 ヨーロッパ世界Ⅰ</p> <p>11 ヨーロッパ世界Ⅱ</p> <p>viewpoint ⑤キリスト教</p> <p>アメリカ大陸</p> <p>アフリカ大陸</p>	<p>*「そのころ日本は」の項目を設け、世界史のなかで日本史が関連付けられるよう配慮した（第5号）。</p>	<p>15、17、20、23 ページ</p>
<p>第2章 世界の一体化の始まり</p> <p>12 16世紀の世界と一体化の始まり</p> <p>13 明代の東アジア</p> <p>14 清代の東アジア</p> <p>15 サファヴィー朝とムガル朝</p> <p>16 オスマン帝国</p> <p>viewpoint ⑥アジアの繁栄（16～18世紀）</p> <p>17 大航海とアメリカ征服</p> <p>18 新しい時代の始まりとルネサンス</p> <p>viewpoint ⑦花ひらくルネサンス</p> <p>19 宗教改革</p> <p>20 スペインの時代からオランダの時代へ</p> <p>viewpoint ⑧危機の時代（17世紀）</p> <p>21 絶対王政と議会王政</p> <p>22 東ヨーロッパの専制</p> <p>23 大西洋経済</p> <p>viewpoint ⑨茶の文化と世界経済</p>	<p>*第1部第2章では、近世における各地域について要点を押さえて記述するとともに、世界がどのような点で一体化したのかを「12 16世紀の世界と一体化の始まり」やviewpoint ⑧⑨で具体的に示した（第1号）。</p> <p>*「そのころ日本は」の項目を設け、世界史のなかで日本史が関連付けられるよう配慮した（第5号）。</p>	<p>54～85 ページ</p> <p>55、57、77 ページ</p>
<p>第3章 近代の世界</p> <p>24 啓蒙とアメリカ独立</p> <p>25 フランス革命</p> <p>26 ナポレオンとその帝国</p> <p>27 イギリス産業革命</p> <p>28 ウィーン体制と自由主義改革</p> <p>29 1848年革命とイギリス・フランス</p> <p>30 クリミア戦争とオーストリア・ロシア</p> <p>31 イタリアの統一とドイツの統一</p> <p>32 アメリカ合衆国の発展とカナダ</p> <p>33 ラテンアメリカと世界資本主義</p> <p>viewpoint ⑩19世紀欧米の文化</p> <p>34 19世紀の西アジア</p> <p>35 南アジア・東南アジアの植民地化</p> <p>36 東アジアの開港と変動</p> <p>37 東アジアの近代化の試み</p>	<p>*第1部第3章では、近代における各地域および日本の歴史について要点を押さえて記述した。また viewpoint ⑩では、交通や通信における世界の一体化について取りあげ、日本も積極的に世界と結びついていったことに言及した（第1号・第5号）。</p> <p>*「キーパーソン」の項目では、医療・福祉の面で貢献したナイティンゲールを取りあげた（第3号）。</p> <p>*「そのころ日本は」の項目を設け、世界史のなかで日本史が関連付けられるよう配慮した（第5号）。</p>	<p>86～117 ページ</p> <p>99 ページ</p> <p>113 ページ</p>

viewpoint ⑪交通と通信の革命		
第2部 地球社会と日本 第1章 現代の始まりと帝国主義 38 資本主義社会の成熟 viewpoint ⑫大衆社会と科学技術 39 世界分割と一体化の進展 40 帝国主義の国際対立 41 植民地・従属国での民衆の抵抗 42 日露戦争と韓国併合 43 辛亥革命	*第2部第1章では、帝国主義時代の各地域および日本について要点を押さえて記述した(第1号・第5号)。 *コラム『『ミカド=ナーメ』と「日露戦争の実状」では、例として日露戦争を二つの視点から取りあげ、歴史的思考を促すよう留意した(第1号)。	118～131ページ 127、128ページ
第2章 二つの世界大戦 44 第一次世界大戦 45 ロシア革命 46 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 47 1920年代のアメリカとヨーロッパ viewpoint ⑬技術と戦争 48 アジア諸地域の抵抗と独立 49 東アジアの民族運動 50 世界恐慌 51 ファシズムの台頭 52 第二次世界大戦前夜の世界 53 満州事変と日中戦争 54 第二次世界大戦Ⅰ 55 第二次世界大戦Ⅱ	*第2部第2章では、二つの世界大戦にいたる各地域および日本について要点を押さえて記述した(第1号・第5号)。 * viewpoint ⑬では、軍事技術とその平和利用について取りあげ、問題意識を促すよう留意した。また「キーパーソン」では非暴力・不服従運動で社会に影響を与えたガンディーを取りあげた(第3号)。	132～157ページ 140～141、143ページ
第3章 平和と冷戦 56 冷戦の開始 57 冷戦の激化と核戦争の危機 58 第三世界の出現	*第2部第3章では、冷戦時代の各地域について要点を押さえて記述した(第1号)。 *戦後世界の平和と安全のために、国際連合などの取組みについて記述し、コラムでは「反核」について取りあげた(第3号・第4号)。	158～163ページ 158、160ページ
第4章 現代世界と日本 59 米・ソの動揺と多極化する世界 60 冷戦の終結 61 グローバル化とアメリカ 62 EUの拡充とロシア、アフリカ 63 中東情勢とイスラーム主義運動 64 アジアの経済発展 65 中国の台頭と多極化 viewpoint ⑭ジェンダーをめぐる変化 66 地球社会の今後と私たち viewpoint ⑮現代の宗教 主題学習 持続可能な社会への展望 身近なモノから地球環境・地域紛争・情報社会を考えてみよう	*第4章では、1960年代以降の各地域について、要点を押さえ、経済や社会に関する今日的な問題にも言及しながら記述した(第1号)。 *「キーパーソン」の項目では、キング牧師、レーガンとゴルバチョフ、マンデラなど平和や人種差別撤廃に尽力した人物について取りあげた(第3号)。 * viewpoint ⑭では、20世紀後半以降のジェンダー観の変化について、viewpoint ⑮では、冷戦後の宗教的な対立や相互理解について取りあげ、現代社会における問題や課題を示した(第3号)。 *「66 地球社会の今後と私たち」では、地球規模での環境問題や様々な課題について取りあげ、日本人として、また地球市民として各々がどのように社会と関わっていくべきかの一例を示した(第2号・第3号・第4号・第5号)。 *主題学習では、ケータイ・スマホを例として、地球環境・地域紛争・情報社会などの問題を示し、問いかけをつうじてそれらの課題に主体的に取り組めるよう留意した	164～185ページ 164、166、171ページ 178～179、182～183ページ 180～181ページ 184～185ページ

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1) 本文の説明を補うためのものとしての図版を各所に取り入れ、生徒の理解を助けるよう配慮した。
- (2) 各テーマごとに最初に問いかけ文を設け、それぞれのテーマは、どこにポイントをおいて考え、学べばよいのかを示した。
- (3) 「キーパーソン」や「コラム」を設け、各テーマと関連して、生徒の興味や学習の意欲が増すよう内容に配慮して記述した。
- (4) 振り仮名や参照ページなどを丁寧に入れて、学習の助けになるよう配慮した。
- (5) 高等学校現場の教科書に関する要望・意見などを十分に検討し、可能なかぎり、それを記述に生かすように努めた。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-157	高等学校	地理歴史科	世界史 A	1～3 学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 A 316	世界の歴史 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- * 地理的条件に留意し、各地域世界に「風土と人々」を設け、地図も大きく掲載した。
- * 日本の歴史との関連に留意し、「そのころ日本は」の項目を設けた。
- * 生徒が歴史的思考力を養えるよう、66 テーマすべてに「問いかけ」を設定し、さらに巻末には「主題学習」を設けた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史を学ぶみなさんへ 世界史へのいざない①自然環境と歴史 世界史へのいざない②日本列島のなかの世界史	(1)世界史へのいざない ア 自然環境と歴史 イ 日本列島の中の世界の歴史	表見返し裏 6～9 ページ	1 1
序 人類の歴史の始まり 第1部 世界の一体化と日本 第1章 世界の諸文明 第2章 世界の一体化の始まり 第3章 近代の世界	(2)世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 イ 結び付く世界と近世の日本 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ アジア諸国の変貌と近代の日本	10～117 ページ	1 11 12 14
第2部 地球社会と日本 第1章 現代の始まりと帝国主義 (テーマ 38) (テーマ 39～43) 第2章 二つの世界大戦 第3章 平和と冷戦 第4章 現代世界と日本 主題学習 持続可能な社会への展望	(3)地球社会と日本 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和 ウ 三つの世界と日本の動向 エ 地球社会への歩みと課題 オ 持続可能な社会への展望	118～183 ページ	6 12 3 8 1
		計	70